

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：14101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580142

研究課題名（和文）初等教育現場で教員が効果的に教科力を養える地域学習教育教材づくり

研究課題名（英文）Development of the teaching abilities for making materials for regional studies effectively

研究代表者

宮岡 邦任（MIYAOKA, KUNIHIDE）

三重大学・教育学部・教授

研究者番号：70296234

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、学校現場における社会科地理についての効率的な授業が実施できるように、地域学習教育教材・プログラムを提案することで小学校社会科地理において教員の地域学習を通じた地誌学的分野の能力養成を図ることを目的とした。地域についての興味関心をテーマにもつこと、興味を持った地域と身近な地域との比較を行うことにより、身近な地域に対する理解を深めることが可能になる。その際、身近な地域について関心事項をテーマとしたフィールドワークを行うことで、その効果が期待できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to be more skillful for teachers to have social studies(Geography) in an elementary school making a program with regional geological field information. To compare with the area where they live and where they have interest leads to be able to understand more about these regional characters. And it is also expected to acquire knowledge and characteristics by the fieldwork in surroundings.

研究分野：地理学

キーワード：地域学習 地理教材 フィールドワーク 小学校社会科

### 1. 研究開始当初の背景

小学校社会科においては、2011年度より施行されている新学習指導要領から、地域学習についての一層の充実が盛り込まれている。さらに2011年年3月に発生した東日本大震災以降、社会科でも従来取り組まれてきた環境教育に加え、自然災害や防災について扱うことが重要になっている。これらの動きは避難経路の確定や地域を守る意識を定着させるための、身近な地域における自然環境と人間生活との相互関係を意識しながら、従来以上に地域に密着した形で学習指導を行うことができる地理学的な能力(教科力)を必要とすることは明らかである。研究代表者は、2012年度より三重県内の自治体、河川・気象に関係する公的機関と協働し、児童が教科書の内容で理解できる防災教育教材の開発に取り組んでおり、その中で各自治体において中学年用に刊行されている都道府県あるいは市町に関する副読本の活用の有効性を見いだしてきている。また、研究分担者である元木も、2011年度より鹿児島県沖永良部島(知名町、和泊町)において、地元小学生を対象に水資源・水利用を素材に環境教育およびESDの観点から地域学習の教材開発研究を行ってきている。一方、国立大学教育学部教員養成課程では、小学校教員養成カリキュラムにおいて教科よりも教職科目により重点が置かれる傾向が強まってきている。大学院教育においても、教職大学院での設置に関わり学校・学級経営に精通したスクールリーダー養成に重点が置かれている。最も肝心の教員の教科に関わる指導力の養成という点には全く触れられていない状況は、近い将来、教科力不足による教科指導力の極めて質の低い教員が大量に輩出されることが懸念される。

### 2. 研究の目的

今後、教科指導に不安を持つ現場の教員が増加することを念頭に置き、社会科教科書と教育委員会から刊行されている副読本の内容の検討と地域学習のモデル的な事例を抽出し、対象地域とテーマを絞り込んだ事例を地域学習教育教材として提案することで、小学校社会科地理において教員の地域学習を通じた地誌学的分野の能力養成を図ることを目的とする。

### 3. 研究の方法

教科書に記載されている地域学習の内容について、対象とするテーマを自然災害・防災、自然・社会環境、地場産業、生活様式・食文化に絞り込み、その内容に関係する部分を副読本から抽出しすりあわせを行う。教科書と副読本の補完関係を検討した後に、対象として扱う地域を選定し、実際に現地において地域住民や小学校教員を対象とした聞き取り調査、自然環境調査などの現地調査を行い、テーマに沿った教材づくりを行う。

作成した教材は複数回現職の教員に実際に使用して頂き、教育現場で教員の教科力不足がどこにあるのかを、現地住民からは地域の特色や課題を捉えているかを検証し、ブラッシュアップを図っていく。さらに、地域の様子を動画で記録することにより、臨場感があふれる形で地域理解の手助けとなるような工夫を行う。

研究遂行にあたり、教科書に記載されている地域学習の内容について、対象とするテーマを自然災害・防災、自然・社会環境、地場産業、生活様式・食文化に絞り、検討・解析および教材づくりに取り組むこととした。

### 4. 研究成果

#### (1)教科書と副読本についての相互補完関係の検討

小学校では、3年次および4年次で地元市町村や県から地域学習のための副読本が配布されている。副読本は教科書の内容に沿った形で身近な市町、県について扱った内容で編集されており、教科書と併用することで身近な地域との比較が可能になり、基本的には副読本と教科書の相互補完関係は成立している。一方、副読本の中には、一般論の記述・説明がかなりのページを占め、教科書の内容とほぼかぶっているものや、その部分が多いために身近な地域を扱う部分が薄いものも散見された。地域を扱った部分に関しては、例えば、土地利用形態を記述した部分では、授業の展開を考えたときに、氾濫原の微地形の分布、形成過程を知識として持っていることが必要と考えられた。小学校における聞き取りの結果、授業者の多くが、このような地理学についての高校レベルの知識も持ち合わせていない実情が浮き彫りになった。

#### (2)テーマを設定した教材・授業提案

##### ①水をテーマにした実践例と授業提案

小学校社会科においては、2011年度より施行されている新学習指導要領から、地域学習についての一層の充実が盛り込まれている。さらに2011年3月に発生した東日本大震災以降、社会科でも従来取り組まれてきた環境教育に加え、自然災害や防災について扱うことが重要になっている。これらの動きは避難経路の確定や地域を守る意識を定着させるための、身近な地域における自然環境と人間生活との相互関係を意識しながら、従来以上に地域に密着した形で学習指導を行うことができる地理学的な能力を必要とすることは明らかである(宮岡, 2014)。一方、2010年3月以来、鹿児島県沖永良部島において島内各地に点在する湧水地に関する基礎調査を行うとともに、湧水地を重要な地域資源として、人・自然・地域・文化などの「つながり」の再生と再構築について、地域密着型の環境教育・ESDの実践について考察を行ってきた(萩原・元木・野村, 2016)。

本研究では、鹿児島県沖永良部島内の小学校

において行った「湧水地を活用した ESD 実践」事例について報告するとともに、それらから見えてきた課題について検討することを目的とした。

本研究の ESD 実践事例は、試験的な取り組みとして位置づけているが、下平川小学校では夏休みの自由研究のテーマとして、大城小学校と和泊小学校では総合的な学習の時間の中の題材として、それぞれの小学校の中での位置づけは異なるが、湧水地を取り上げていただいた意味は大きい。児童が湧水地へ赴き調査し、湧水地に対する興味・関心が高まった事を考えれば、アプローチは異なるものの湧水地を取り巻く地域に対する理解が深まり、湧水地の環境さらには島内における水の重要性に対する意識が呼び起こされたと考える。

しかしながら下平川小学校、大城小学校とも、2013 年度以降は同様のことを継続的に実施できていない状況にある。和泊小学校においては、2014 年度までは続いたがその後の継続は難しい状況にある。ESD 実践の継続性には課題が残るものの、湧水地を活用した ESD 実践を進めていくには、まず島嶼の特徴あるいは水と人間活動との関係性やその変遷を理解することが、地域の持続可能な発展を考える機会になるのではないだろうか。

また、学校教育現場の教員は、地域の実情や変化を理解するのに時間がかかるということが明らかになった。

教員の実態として、その多くが沖永良部島の湧水地という点、平成の名水百選に選定されたジッキョヌホー（瀬利覚の川）、鹿児島県指定天然記念物である住吉暗川（クラゴ）といった規模が大きく、あるいは幹線道路近くにあるため比較的に見つけやすい湧水地についてであった。確かに島嶼地域であるだけに、水には鋭い関心が向けられていることは分かるが、一部の島嶼出身の 60 代の先生を除いて、沖永良部島における湧水地の意味やその利用の歴史まで立ち返って理解している人は少ないようである。一つの理由として、若い世代の教員は日常生活では水道水を利用している、ということまでであり、水源や水と生活、あるいはその基盤としての珊瑚礁地形の水環境などとの関係性を意識することは少なくなってきたように推察される。これには現職の先生方の中には島外出身者が多数を占めるようになってきていることも影響している可能性があるのではないかと。一方、教育内容については、以前から明らかになっていることではあるが前年度の段階で固めるため、新しい題材を扱い、その準備に時間を割くことは難しい、との意見も聞かれた。また、教員が湧水地について知っていたとしても、教材開発をするだけの時間がなくなってきたことも要因として挙げられる。

そのような状況の中で地域の歴史や環境が書かれた地域誌や副読本の役割は大きい。島

に暮らす高齢者の経験を取り入れた新たな教材の開発（副読本の見直し）は、地域を見直す重要な役割を果たすと考える。そのためにも児童用の資料を作成するのはもとより校区内の湧水地に関する情報を把握できるような教材および指導者用資料の作成が必要不可欠であろう。今後は、教員が土地の様子や変遷を伝えるためには、場所の安全・安心といった点も考慮に入れて、教員自らが地域を歩き、観察し、住民と情報交換することの意味を改めて考えなければならない。

## ②巡検を用いた地域理解と授業への応用

2014 年度から 2016 年度にかけて、身近な地域について、地域学習の可能性をテーマの一つに掲げ、日本地理学会開催時に巡検を企画した。3 回の巡検のコースと目的は以下の通りである。

- ・新宿から渋谷・恵比寿（中目黒）に至る渋谷川・目黒川周辺の台地上と谷における土地利用や地域資源の差異について紹介するとともに、地域資源の捉え方・地理教材の取り扱い方についても現地観察を行いながら検討・議論する

- ・多摩川流域の武蔵野の湧水や河川などの水利用と歴史、土地利用などを新旧の地形図と明治・大正・初期に武蔵野の景観描写をした文学作品も参照して地誌学的な事象を見て回る。

- ・神田川下流域の早稲田から飯田橋周辺の水環境と土地利用などについて、古地図や史資料を見ながら当該地域の巡検を計画した。水路跡や水関係施設跡などの水景から地域性を捉えたり、日本の代表的な文豪で、当地域にゆかりもある夏目漱石などの文学作品の記載から水文環境を理解したりすることで地理学の学際性や多様性について考えることとしたい。

これらの巡検には、学会員以外の一般の方、地理教育の教員、大学生にも参加頂いた。一般的には地理的事象についての興味は相当数あることが確認された。一方、例えば地形形成のメカニズムについて、巡検の際の簡単な説明のみで理解を得られる可能性は低く、巡検を開催する事前あるいは事後の説明を如何に興味のあるものに構成し、教授する必要があることが確認された。小学校社会科における「まちたんけん」とのリンクを考えたときに、指導書の内容に専門的な視点からの解説を含ませ、その内容に沿ったフィールドワーク（巡検）に参加してもらう機会をつくることで、授業者への地域への理解を深めてもらうことができることが示唆された。

## (3) まとめ

本研究課題の遂行の結果、地理的なバックグラウンドを持たない授業者に対して、地理的なセンスの涵養を考えたとき、観光、特産品などの興味を持ったものを使った地域理解を導入とし、身近な地域との比較を行うこ

とで、社会科授業への展開を図ることができる可能性が見いだされた。研究遂行期間中に、防災・減災教育、ESDにも絡めて、いくつかの授業提案を試みたが、今後、身近な地域における具体的な授業提案について、さらに議論を深める必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3件)

1. 元木理寿・萩原豪(2017)：地域理解のための遊水地を活用したESD実践－鹿児島県沖永良部島を事例として。コミュニティ振興研究, 24, 137-146. (査読無)
2. 谷口智雅・戸田真夏(2016)：水と文学の地誌。E-journal GEO, 11-1, 352-355. (査読有)
3. 長谷川直子(2015)：地理学の巡検と旅行の違いを探る－日巡検授業実践報告－。お茶の水地理, 54, 31-34. (査読無)

[学会発表] (計 14件)

1. 元木理寿・市村卓司：高大連携プロジェクトとその可能性。日本地理学会, 2017. 3. 29, 筑波大学(茨城県、つくば市)
2. 谷口智雅・武エイ：天津師範大学国際交流院日本語班の学生を対象とした水の利用に関する意識。日本陸水学会, 2017. 2. 11-2. 12, 四日市市霞ヶ浦会館(三重県、四日市市)
3. 元木理寿・大八木英夫・萩原豪：島嶼におけるESD展開と地域学習教材づくりの課題。2016. 8. 7, 学習院大学(東京都、豊島区)
4. 元木理寿：水資源を活用した持続可能性の教育と地域理解。日本地理学会, 2016. 3. 22, 早稲田大学(東京都、新宿区)
5. 谷口智雅：地誌巡検と地域学習力向上のための地理教育教材作成。日本地理学会, 2016. 3. 22, 早稲田大学(東京都、新宿区)
6. 大八木英夫・元木理寿・萩原豪・宮岡邦任：鹿児島県沖永良部島における水文特性と持続的な水利用について。日本水文科学会, 2015. 10. 10-10. 11, 筑波大学(茨城県、つくば市)
7. 元木理寿・大八木英夫・萩原豪：沖永良部島における水文環境と持続的な土地利用。日本地理学会, 2015. 9. 18, 愛媛大学(愛媛県、松山市)
8. 谷口智雅・宮岡邦任：大学生の地域ブランド認識－三重県の農林水産物・地域特産品の事例－。日本地理教育学会, 2015. 7. 18, 奈良教育大学(奈良県、奈良市)

9. 元木理寿・萩原豪：湧水地を活用したESD実践とその課題－鹿児島県沖永良部島を事例として－。日本地理教育学会, 2015. 7. 18, 奈良教育大学(奈良県、奈良市)
10. 萩原豪・元木理寿・野村卓：沖永良部島における湧水を用いたESD実践とその波及効果。日本環境学会, 2015. 6. 21, 龍谷大学(京都府、京都市)
11. 元木理寿・谷口智雅・大八木英夫・宮岡邦任：水を素材としたESDと地域理解－陸水環境の温故知新－。日本陸水学会, 2014. 9. 13, 筑波大学(茨城県、つくば市)
12. 長谷川直子・横山俊一：一般向けの地理教養向上手段としての旅行ガイドブック活用の可能性について。日本地理教育学会, 2014. 8. 8-8. 10, 横浜国立大学(神奈川県、横浜市)
13. 谷口智雅・宮岡邦任：水を素材とした小学校における地域環境学習。日本地理教育学会, 2014. 8. 8-8. 10, 横浜国立大学(神奈川県、横浜市)
14. 元木理寿：低い島における水資源を活用した環境教育の展開～沖永良部島におけるESD実践を通じて～。日本環境教育学会, 2014. 8. 1-8. 3, 法政大学(東京都、千代田区)

[図書] (計 0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者  
宮岡 邦任 (MIYAOKA, Kunihide)  
三重大学・教育学部・教授

研究者番号：70296234

(2)研究分担者

元木 理寿 (MOTOKI, Masatoshi)  
常磐大学・コミュニティ振興学部・准教授  
研究者番号：10449324

長谷川 直子 (HASEGAWA, Naoko)  
(石黒 直子) (ISHIGURO, Naoko)  
お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授  
研究者番号：60433231

谷口 智雅 (TANIGUCHI, Tomomasa)  
三重大学・国際交流センター・特任教授(教育担当)  
研究者番号：70449320

大八木 英夫 (OYAGI, Hideo)  
日本大学・文理学部・助教  
研究者番号：50453866